

10月6日、新潮社記念文学館で開催されていた巡回展「矢来町のたからもの〜佐藤俊夫新潮社元会長旧蔵資料の輝き〜」の特別企画として「編集委員 中島国彦氏がひも解く『矢来町のたからもの』その魅力」と題した記念講演が開催され、およそ40人が参加しました。

記念講演では、編集委員の中島氏が、近代文学の背景と文豪たちの残した自筆資料の魅力について、資料を用いたり、展覧ブースに移動し解説するなど、参加者と密に接した講演となりました。

中島氏は「何気ないただの紙切れだが、眺めるだけでなく、興味関心、好奇心を持って作者がどのような気持ちで書いたのかを感じてほしい。そして、資料や活字を通して長年の歴史にふれてほしい」と話しました。

### 巡回展 矢来町のたからもの ～佐藤俊夫新潮社元会長旧蔵資料の輝き～ 編集委員 中島国彦氏が記念講演



中島氏の興味深いお話に参加者の皆さんは熱心に耳を傾けていました。



玉川ダムについてわかりやすく説明する足立氏。

### 田沢湖クニマス未来館 開館2周年を記念して 特別講演会を開催

10月11日、田沢湖クニマス未来館で開館2周年記念特別講演会が開催されました。講師に参議院議員の足立敏之氏を迎え、「玉川ダムの建設と酸性水対策」という題目で講演が行われました。

足立氏は玉川ダムの建設に携わった方で、酸性水中和処理施設の設計にも取り組んでいます。

講演では、玉川ダムの洪水調節効果や概要、酸性雨対策の歴史など、土木技術の視点から参加された54人に資料を用いて解説しました。

足立氏は「田沢湖クニマスが戻ってきて、水質が厳しい。水質をどうやって改善していくか、未来にどうつなげていくか。田沢湖の再生に向けて少しずつ変えていきたい」と話しました。

### 仙北市剣道連盟・筑波大剣友会 交流稽古会を開催



2日間にわたり、熱の入った稽古が行われました。

仙北市剣道連盟（佐川俊也会長 恒例の筑波大剣友会との交流稽古会が9月21日に角館武道館で、22日に生保内小学校体育館で行われました。

筑波大剣友会会員の千葉猛氏（東京都在住、田沢湖中村出身）の紹介で田沢湖志成館の田口和美氏が筑波大剣友会の稽古会に参加したのを縁に始まった交流稽古会も今年で20周年を迎えました。

今年は筑波大剣友会と東京都墨田区剣友会から11人の先生が本市を訪れ、仙北市剣道連盟の小学生から一般まで50人と熱の入った指導稽古が行われました。

1回目から参加している筑波大剣友会前主将の和田勉先生は「年1回の交流稽古会を20年も継続でき感慨深い」と話しました。また、筑波大剣友会主将の中村幸生先生は「今後も継続し剣友会の他の会員も参加してもらいたい」と感想を述べました。

仙北市剣道連盟も「交剣知愛」の精神で交流会を今後も継続していきたいと思っています。

### 食育街頭キャンペーン

9月3日と10月4日に、仙北市食生活改善推進協議会が市内のスーパー店頭で「食育街頭キャンペーン」を行いました。

1日3食規則正しい食生活と主食、主菜、副菜をそろえたバランスのよい食事は毎日を元気に暮らす源となり、様々な病気の予防にもなります。今回の街頭キャンペーンでは、仙北市食生活改善推進員が、買い物に訪れた方に「野菜を毎食食べましょう」とリーフレットやレシピを配布し、野菜を食べるこの大切さについて伝えました。



野菜を食べる大切さを呼びかけました。

### 食からつくる健康づくり

このほど、白岩地域運営体（菅原秀俊会長）の事業で栽培した原木舞茸が、市内全域の学校給食で振る舞われました。

同運営体のこの栽培事業は今年で7年目を迎え、平成27年から学校給食で提供されています。

色や香りがよく、美味しい原木舞茸は、10月3日に角館地区では「肉うどん」、西木地区では「舞茸入りうどん」、田沢湖地区では「芋の子汁」として、それぞれのオリジナルメニューで提供されました。



美味しく食べてあっという間になっちゃっ！

ニユーで舞茸が提供されました。給食で芋の子汁を食べた生保内小学校の子どもたちは、終始笑顔で秋の味覚を美味しく頬ばっていました。

### 第6回秋田25市町村対抗駅伝 ふるさとあきたラン！鹿角大会

10月6日、鹿角市の道の駅おおゆを主会場に、鹿角市内循環特設コース（9区間、32.9km）を走る「第6回秋田25市町村対抗駅伝ふるさとあきたラン！鹿角大会」が開催されました。

この大会は、県内全市町村が一堂に会し、市町村の代表選手によるチームで競い合うもので、今年で6回目の開催となりました。

仙北市選抜チームは、総合第12位（出場33チーム）、市の部門で第8位の成績（1時間55分42秒）を収めることができました。たくさんの応援をいただき、ありがとうございました。



第2区（小学生女子）の三浦奈々美さん。



最終区間（第9区）の大澤ゆき乃さん。



各世代一丸となって、たすきをつなぎました！

来年の第7回大会は、仙北市で開催します！

### 防犯功労者表彰式・全国地域安全運動合同パトロール出動式

- 令和元年度防犯功労者表彰式受賞者(敬称略)
- ▲全国防犯功労者(防犯栄誉銅章) 山形則男
- ▲東北防犯功労団体 仙北市防犯協会角館支部
- ▲秋田県防犯功労者 澤田雅樹、高橋光風、山形修一
- ▲地区表彰(個人表彰) 永井郁郎、安藤武、河村勝子、藤村康子、狐崎恵子、阿部龍翔、戸澤博之、新山正雄、田村俊一
- ▲地区表彰(団体表彰) 万六建設(株)、(株)森元組、合資会社力ネダイ薬局、(株)鈴建興業

10月11日～20日の10日間、防犯協会をはじめとする地域安全に関係する団体や警察が、もっと安心して暮らせる安全な地域社会の実現を目指す「全国地域安全運動」が実施されました。運動開始日には、角館武道館で防犯功労者表彰式・全国地域安全運動合同パトロール出動式が行われ、仙北市防犯協会支部会員や警察などの関係者が出席しました。出動式で、角館高校書道部によるパフォーマンスが披露され、安全安心な地域づくりを誓い、パトカーや青色回転灯装備車などに乗り込み、パトロールに出発しました。タカヤナギワンダーモーターでは、角館高校書道部の特殊詐欺などの被害防止の呼びかけが書かれた作品とともに来店された方々にパンフレットを配布しました。



特殊詐欺にご注意!



防犯功労者表彰を受けられた皆さん。

### 健康について考える 鎌川地区で ミニデイサービス



三浦院長の講話は、自分の健康を見つめなおす時間にもなりました。

10月2日、岡崎生活総合センターで鎌川地区ミニデイサービスが開かれました。世話人の方が中心となり、地域の方約30人が参加し、血圧測定の後、仙北市包括支援センターから介護予防についてのお話、大曲厚生医療センターの三浦雅人院長から肝臓病についての講話がありました。講話では、自分で気をつけることや治療の仕方、検査や健康診断で早く病気を見つけること、自分で努力した結果を定期健診で確認することの大切さなどが、ユーモアを交えながら話され、会場は笑いにも包まれました。参加者からは、「自分の健康は自分で守らなくてはならないと感じた」「わかりやすく楽しかった」「わがかりやすくてよかった」などの感想が聞かれました。仙北市包括支援センターでは、地域の集まりに出前講座で伺います。ご希望の方は ☎43・2283までお問い合わせください。

### 秋田県仙北地域 公民館大会

10月9日、仙北市民会館を会場に仙北地域の公民館関係者が一堂に会する「第59回秋田県仙北地域公民館大会」、並びに「第42回大仙仙北地区生涯学習推進研究大会」が開催されました。

大会に先立ち、長年にわたる公民館活動へのご功労を称え、中島弘子さん(田沢湖)、佐藤愛子さん(西木)に西木町八津地区に古くから伝わる鎌足和紙を使用した表彰状が贈られました。

会場のロビーには、短歌や押し花絵など、公民館活動をされている方々の作品が多数展示されました。

ステージでは、西木町出身の直木賞作家・西木正明さんと門脇市長によるトークショー形式の基調講演や、仙北地域で生涯学習活動を推進している方々の事例発表が行われました。大会の最後に、市内外で活躍している「田沢湖龍神太鼓保存会」と「西木町くりっこ太鼓」の共演が行われ、会場は大いに盛り上がりしました。



西木正明さん(右)と門脇市長(左)のトークショー。興味深いお話に皆さん聞き入っていました。

### 栄光 ～輝くとき

#### 第29回東北小学生学年別ソフトテニス大会

#### 強豪相手に第3位

10月13日、第29回東北小学生学年別ソフトテニス大会が福島市庭球場(福島県)で開催され、仙北市ジュニアの澤山・小室(秋田市ジュニア)ペアが第3位に輝きました。東北各県の予選を勝ち抜いた32ペアが出場した5年女子の部。澤山・小室ペアは、強豪相手に粘り強い戦いで勝ち進み、見事第3位という好成績を収めました。



第3位となった澤山(右)と小室(左)ペア。

#### 第42回秋田県スポーツ少年団 柔道交流大会

#### 女子個人戦で優勝

10月6日、第42回秋田県スポーツ少年団柔道交流大会が秋田県立武道館(秋田市)で開催され、女子個人戦小学4年生の部に出場した田沢湖慈愛館の佐藤亜耶希さん(神代小)が見事優勝しました。



優勝した佐藤亜耶希さん。

### 市長の まちづくり No.160 日記

中川小学校の学習発表会で、6年生の演劇「144年目の中川小学校へ」を観ました。4人全員がステージに立ち、学校と地域の関わり、その歴史や文化を丁寧に発表してくれました。感動的でした。

### 『中川小学校の閉校と地域力』

仙北市長 門脇 光浩

中川小学校は、来年4月に角館小学校と統合し、長い歴史に幕を閉じます。明治8年創設の吉原小学校に始まって、その後は、川原村・小勝田村・山合川崎村の3村連携で実現した三省小学校(明治18年)、中川簡易小学校(明治23年)、中川尋常小学校(明治25年)、中川小学校(昭和22年)など、それぞれの時代で名称や場所を変えながら、常に多彩な人材を輩出し続けた功績は筆舌に尽くすことができません。

現在、日本は人口減少国に転じ、仙北はさらに少子・高齢社会が加速する予測をしていますが、地域の学校は様々な意味で重要な存在です。しかし、子どもたちに可能な限り良好な教育環境を提供する大人の責任から、子どもたちの将来を最優先で考え、中川地域の皆さんは角館小学校への統合を決心しました。これもまた、筆舌に尽くしがたい尊い判断です。

子どもたちは、既にスポーツ少年団や伝統文化活動、学校交流などで角館小学校にも友だちはたくさんいるようです。一方で閉校後の校舎の活用をどうするのか、今後の地域の在り方に大きな影響をおよぼすことは明らかです。そこで利活用の検討を地域の皆さんと一緒に進めたいと思い、先日から意見交換会を始めました。市は校舎を地域のコミュニティセンターにできたらと、そんな考えがありました。でも、地域の皆さんは私たちの考えを飛び越え、例えば「市内外の皆さんが訪ねたくなるような場所にしたい」「スポーツ合宿や農業体験の拠点施設に改修できないか」「トレーニング機器を置いたジムを開設し、市民の健康増進を担うことも可能」など、高機能化・交流拠点化に向けた改修要望が多数でした。閉校を起点として、子どもたちの未来を開き、地域の未来も開くこととする、新しい地域づくりのスタートです。

何よりも、中川地域が全国に誇れる歴史や資源を持っている、ことを成し遂げる良好なコミュニティがある…、そんな自信を感じました。すごい地域力です。